

沖縄のカラオケジョイグループ スーパースター導入で効率化とサービス強化図る



▲店長の仲村宗之氏

接客サービス重視ながら 人手不足が課題

沖縄県でカラオケボックスを8店舗展開するジョイグループは2014年12月12日、「カラオケスポットジョイ浦添店」を移転オープンした。ジョイグループでは接客サービスを重視した運営を心掛けており、客とのコミュニケーションを大切にしながら地域に根差した運営に注力している。旧浦添店ではPOSシステムと飲食オーダーシステムは導入していなかったものの、(株)エクシングの紹介もあり、昨年の移転を機に導入を図った。

ルーム数25室を擁する同店は、南国沖縄らしい明るくトロピカルな店内が特徴だが、営業時間は夕方6時から翌朝6時までと、昼間の営業は行っていない。那覇市の国際通りのような繁華街立地ならわかるが、郊外ロードサイド立地でなぜ夜間営業なのか。そのことについて、同店店長の仲村宗之氏は次のように語る。

「旧浦添店では午後1時から営業を行っていたのですが、現在は昼間の営業ができない状況です。その大きな要因は人手不足です。オープン前からパート・アルバイト募集を求人情報誌で行っていますが、応募者がほとんどなく、いまだに営業できずにいます。常連さんから

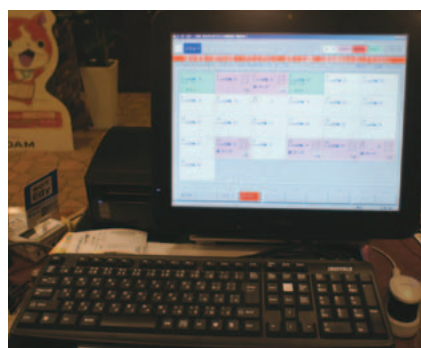
は『早く昼間の営業を再開してほしい』と催促されていますので、昼間の営業を早く再開したいのですが・・・」と実情を打ち明ける。

POSシステム、セルフオーダー端末の 導入で、接客への注力が可能に

オープンに合わせてPOSシステム、セルフオーダー端末を導入した同店だが、仲村店長はその導入効果を実感している。

ひとつには、POSシステムによりルームの稼動状況がモニターで確認でき、オペレーションがしやすくなったこと。そして売上げ集計の作業時間が大幅に短縮したことで営業終了後の退店時間が早まるなど、効率が上がった点を指摘する。以前は手書き伝票を参照しながらドリンク、料理、室料の売上げを集計していたためかなりの時間を要していたという。またセルフオーダー端末については、飲食の受注がスムーズかつ正確になったほか、メニューごとに売上げ集計が可能なたため、メニュー構成の変更など戦略的に営業施策が立てられる点をあげる。

スーパースターシリーズの導入は、オペレーションの効率化に加え、接客サービスの向上にもつながるメリットがある。限られた人数で受付、飲食の受注・配膳、精算など複数の業務をこなさなけ



▲POSシステムの導入でルームの稼動状況や売上げ集計作業が大幅に軽減された



◀飲食オーダーの方法を解説したインフォメーションを設置。ルーム内のインターホンにラベルを貼り、セルフオーダー端末での飲食オーダーを促している

ればならない現場サイドからすれば、システム機器の導入で作業の軽減が図られることで精神的な余裕も生まれ、その分、接客に集中できるのである。

ジョイグループにとってスーパースターシリーズの導入は浦添店がはじめてとなるが、浦添店でのオペレーションをもとに他の店舗にも順次導入を図っていく予定だ。全国レベルで求人難が顕在化しているなかにあって、人手確保は大きな経営課題だが、今後も求人難が続く以上、POSシステム、セルフオーダー端末などのシステム機器の重要性はますます高まるであろう。

「スーパースターシリーズ」 とは

(株)スターランドが開発・販売するPOSシステム「スーパースターシリーズ」は、カラオケボックスほか、複合カフェ、温浴施設、飲食店など各業界向けバージョンがラインナップされ、その導入施設から高い評価を受けている。



▲国道330号沿いにオープンした「カラオケスポットジョイ浦添店」

問い合わせ

(株)スターランド
〒426-0037
静岡県藤枝市青木3-14-1

0120-007-009
FAX▶054-644-5034
URL▶http://www.starland.co.jp